

必ず入れて欲しいものを吹き出しで示しています。
A4で1枚にまとめましょう

2019年度商学部ゼミナール3報告

日付

報告箇所

報告者

2019/04/17

報告者: 中瀬哲史

報告箇所: E. H. Carr (1961) What Is History?, London: Macmillan (清水幾多郎訳『歴史とは何か』岩波新書, 1962年) 第1章「歴史家と事実」1-16頁

報告者にとって、当該箇所を読んで議論したいと思った点

1. 報告箇所の論点

歴史家の役割とは何か。単に時間の果たす役割にとどまるのか。

2. 報告箇所の紹介

本報告の理解にとって重要だと考えられるものを列挙する

2.1 キーワード(5つ程度)

事実, 歴史的事実, 歴史家, 主観と客観

なぜ、論点として取り上げたのかが、明快になるようにまとめること。事細かに内容紹介する必要はない。

2.2 内容紹介

- 「過去の単なる事実」と「歴史的事実(歴史上の事実)」について

19世紀の事実尊重の時代の「事実」

外部から観察者にぶつかってくるもの、観察者の意識から独立なもの、文書や碑文などのうちで手に入れることのできるもの＝客観的な存在

現代の「歴史的事実」

歴史家が事実に呼びかけた時にだけ語るもの、歴史家の選択によるもの＝歴史家の主観による存在

※なぜ、「歴史的事実」が必要なのか

- 近代史家の二重の仕事について

古代史家, 中世史家の有する, 進行した, 巨大な淘汰課程

時間が不要なものを削ぎ落としてくれる

それを持たない近代史家に求められる二重の仕事

- ・「少しの重要な事実を発見して、これを歴史上の事実たらしめる」

- ・「沢山の重要でない事実を非歴史的な事実として棄てる」(14-15頁)

だからこそ、現代では「歴史とは何か」が問われる…歴史家の能動性, 積極性が目立つ
＝時間の果たす役割の代わりとしての歴史家

※歴史家の役割とは何か。単に時間の果たす役割にとどまるのか。(それを超えないのか)

最後に、論点を確認